

妙安寺だより 325

テレフォン法話 092-751-6084 (毎週月曜日に話が変わります)

〔お盆の始まり(後)〕

この姿をご覧になったお釈迦さまは、次のようにをさとされました。

「目連よ、お前の大切なお母さんは、生前の罪が重いためにに堕ちたのだ。

その罪の一つは、お前ひとりを可愛がったからだ。

盲目的に、誰よりも立派なお坊さんにしようとして教え育てのだ。

仏教の教えから見ると、このように母親がわが子を愛する気持ちもまた、人間の深い愛欲なのである。

この愛欲により、私の力やお前ひとりの力でも、とうてい救うことができないめを受けているのだ。

私の言う通りにすればきっと救われるであろう。

まもなく、7月15日がやってくる。この日、三カ月の修行を終り、になった僧に衣服や食事を供養し、の力をりて祈るのだ。

その功德は、お前の母親のためだけではない。

七代にわたる父母を始めとするご先祖さま、餓鬼道に堕ちて苦しんでいる者たち、有縁無縁のすべての生きとし生ける者に、百味の飲食を供養することにもなるのだ」と、説かれました。

目連尊者は、お釈迦さまのこの教えにしたがって供養されました。

やがてひとすじの光明が、餓鬼道に堕ちていた母親をはじめ、多くの餓鬼道にちて苦しんでいる者たちは、餓鬼道の苦しみから逃れ、を浮かべへとって行く姿が、やかに浮んできました。

仏弟子たちは喜び、人々は思わずの踊りを踊ったのでした。

これが「り」の始まりとも言われています。

それ以来、亡くなった人々がの世界へ生まれ変わることができるようにと、「お盆」の行事が行なわれるようになりました。

「り」の教えは、中国に伝えられ、やがて日本にも伝えられました。

中国では、の時代(538年頃)同泰寺というお寺で修したとされています。

日本では、天皇の時代(657年)の7月15日、飛鳥寺の西にの像をつくり、お盆を修したのが最初とされています。

秋季お彼岸お施餓鬼法要の案内

9月26日(月曜日) 彼岸明け
正 午より お (昼食の準備をしております)
午後1時より 秋季お彼岸お施餓鬼法要
午後2時 法 話

※卒塔婆供養ご希望の方は、別紙「卒塔婆申込書」にて早めにお申し込みください。
FAXにても申し込みできます。(FAX番号 092-751-4055)

お彼岸読誦回向は、住職が下記の時間に行ないます。

9月20日(火曜日)	彼岸入り	午前11時	午後2時
9月23日(金曜日)	彼岸中日	午前11時	午後2時

お彼岸回向(棚経)は、副住職がお伺いいたします。

※毎年、時間の問い合わせがありますが、お伺いする順路や交通事情などにより、お伺いする時間はわかりませんのでご了承ください。

平成24年度の地涌の声「功德主」の募集

平成24年度の地涌の声「功德主」を募集いたします。

ひと月 5,000円(300通、各檀信徒へ寺報とともに配布します)

申し込みご希望の方は、早めに(希望月の2カ月前まで)お願いします。

尚、ご希望者が、同じ月になった場合は、申し込み順になりますのでご了承ください。

4月・12月は申し込み済みです。